慶應義塾普通部

KEIO FUTSUBU SCHOOL

FUTSUBU 125

KEIO FUTSUBU SCHOOL

その先へ

普通部百二十五年

学校案内 2023 - 2024

慶應義塾普通部の教育

慶應義塾普通部は本年で125年を迎えました。慶應義塾が1898年に大学部、普通部、幼稚舎から成る16年間の一貫教育制度を整えてから125年の節目の年です。多くの方々に支えられて125年を迎えることができたことは大変喜ばしく、有難いことと感じています。

この普通部は、学校法人慶應義塾が設置する学校のうちの一つで、横浜市にある男子中学校です。普通部の「普通」とは「ごく普通の」「ありふれた」という意味の普通ではなく、「あまねく通ずる」「広く通用する」という意味です。すべてのことに普遍的に通ずる教養を身につけてほしいという意味が学校名に込められています。

現代はさまざまな情報がインターネット上にあふれています。それらの情報が正しいのか、そうではないのかをどのようにして見極めればよいのでしょうか。情報の真贋を判断するためには、幅広い知識や教養が必要です。そのためには英語や国語、数学などの座学だけではなく、芸術、体育なども含めてすべての科目をまんべんなく修め、細分化された科目ごとの知識だけではなくそれらを俯瞰的にとらえる力をつけることが必要です。このため普通部では特定の教科に偏ることなく、全教科をくまなく修めることを目指しています。

普通部で行っている教育活動は、正課（授業）、課外活動（式典、行事）、部会活動（クラブ）の三種類です。これらのうち最も大切にしているのは正課である日々の授業です。授業や学習を通して積み重ね、学問を修めてほしいと考えています。

何かを身につけ、達成するためには、コツコツ積み重ねること、繰り返し継続することが大切です。ただ、一人で継続するのは難しいものです。ですから、普通部では授業や行事でそのためのプログラムを用意しています。たとえば理科では、毎週100分間の実験を行っています。実験を行っている最中は楽しいのですが、行っただけでは実験内容が定着しません。このため、実験後には実験報告書（レポート）を書いてもらっています。専用の900字詰めレポート用紙に毎週５～10枚くらい書きます。10枚書くと毎週9000字になります。もちろん最初は大変で、みな苦労しながら書いています。ところが、毎週書き続けることを３年間繰り返すうちに自然といろいろな力がついてきます。実験で自分が行ったことを振り返り分析する力。振り返ってみてもわからないことを図書室やネットなどで調べる力。それでもわからないときに友達と相談したり議論する中で培われるコミュニケーションの力。自分の考えを他人にわかりやすく言葉で表現する力。理科以外にもたくさんやるべきことがある中でレポートを書く時間を作り出す時間管理能力。これから先学習する上で、生きていく上で必要な力が身につきます。このようなことを理科だけではなく、他の教科でも実践しています。

普通部長　森上　和哲

普通部には労作展という行事があります。ひとりひとりがテーマや課題を定めて、調べたり考えたりしながら、作品や論文を半年から一年かけて完成させる作品展です。３年間同じテーマで取り組む人もいます。先ほどの理科のレポートでは課題が与えられていましたが、労作展は課題やテーマそのものを自分で設定します。つまり、レポートよりもさらに次元の高い活動になります。労作展は普通部にとってとても大切な行事です。

普通部は、友人と話し合ったり、議論したり、触れ合ったりしながら学習を積み重ねて自分の力を養う場です。知ることによって想像力が育まれます。体験することで実践力が身につきます。その先にある「自ら問いを生み出し自ら解いていくことのできる人の育成」このことに普通部は心を砕いていきたいと考えています。

Contents

慶應義塾普通部の教育……1
慶應義塾と普通部の歩み……2
教科教育……3
選択授業……7
宿泊行事・国際交流……8
普通部生の１日と１年……9
労作展……11
目路はるか教室……13
部会活動……15
施設……17
ウェブサイト・出願・入学……19
学費・費用……20
普通部の特色……21
進学……22

慶應義塾と普通部の歩み

江戸時代

1858 福澤塾の始まり

福澤諭吉が江戸築地で蘭学塾を開きました。福澤23歳の時でした。これが慶應義塾の始まりです。福澤の活動と慶應義塾の歴史がそのまま日本の近代教育の歴史へとつながります。

1859 蘭学から英学へ

福澤は開港直後の横浜を訪れ、それまで学んでいたオランダ語の実用性の低さを知り、英語を学ぶことを決心しました。翌1860年に咸臨丸（かんりんまる）が渡米した時も自ら進んで参加するなど、福澤は幕末に計３回欧米を巡歴し、塾も英学塾に転換しました。

1868 慶應義塾と命名

当時の元号にちなんで塾名を「慶應義塾」と定め、福澤個人の私塾が福澤と同志門下生との共同結社になりました。旧暦5月15日、上野彰義隊の戦いの時には、砲声を耳にしながら、福澤はウェーランド経済書の講義を続けました。1871年にはそれまでの芝新銭（しんぜん）座から、三田の現在地に移転しました。

明治時代

1890「大学部」の開設と「普通部」

新しく「大学部」が開設されるに際して、福澤塾以来の課程を「普通部」と称することになりました。

1898 一貫教育体制の確立

慶應義塾に幼稚舎（初等教育）から大学科に至る一貫教育の体制が確立しました。この時、普通部は中等教育の課程（５年制）となり、「普通学科」と改称しました。（翌1899年に再度「普通部」となる。）

大正時代

1916 全国中等学校野球大会で普通部優勝

第２回全国中等学校野球大会（現在の夏の甲子園大会）で普通部が優勝を果たしました。

1917 綱町へ移転

普通部は三田綱（つな）町（現中等部所在地）に三田山上から移転し、ここで多くの伝統が生まれました。

昭和時代

1927 労作展始まる

第1回の労作展覧会（労作展）が開かれました。これは前年に文部省令に先立って導入された手工科（現在の技術科）分野の作品や図画を中心に、研究論文などを展示する試みで、今日もそのスタイルと精神の継承に努めています。

1947 新制中学校となる

学制改革により、それまでの修業年限５年の中学（旧制中学）から、修業年限３年の新制中学となりましたが、伝統ある「普通部」の名称はそのまま受け継がれました。

1951 日吉へ移転

現在の日吉の丘に新校舎の一部が完成し、戦災のため一時期身を寄せていた天現寺の幼稚舎から、３年生が移転しました。翌年には全学年の移転が完了し、スキー学校が始まりました。1957年には水泳学校（現在の海浜学校）も始まりました。

1969 選択授業の設置

既存の教科の枠組みにとらわれず、生徒の主体的な選択と取り組みを尊重する教育を実現するため、芸術分野の科目を中心に選択授業が始まりました。６講座からスタートした選択授業は、2022年度現在、15講座が開講されています。

平成時代

1998 普通部百年

中等教育としての普通部が百年を迎え、記念式典が行われました。また、「目路はるか教室」も始まりました。2001年には１年生の20人学級がスタートし、9月には新本館が完成しました。（2005年から24人学級へ移行。）

2008 慶應義塾創立150年

日吉キャンパス陸上競技場をメイン会場に「創立150年記念式典」が挙行されました。義塾社中一同が集い、創立150年を祝うと共に「未来への先導」を果たす学塾として社会に貢献し続けることを誓いました。

2015 普通部新本校舎竣工

1951年以来数多くの普通部生を見守ってきた白亜の校舎を受け継ぎ、２月に新本校舎が竣工しました。多様な授業形態・学習スタイルに対応する教室、設備を整えた校舎が誕生し、次の時代を見据えた新たな普通部が動き始めました。

令和時代

2023 普通部百二十五年

中等教育としての普通部が125年を迎えます。６月に記念式典を行い、125年特別行事も実施します。

教科教育

受験から離れて、学問の本質を探求する

慶應義塾大学への進学を前提に、広く深い学識の修得を目指しています。そのためどの科目も満遍なく学ぶとともに、基礎・基本は重視しつつ、学問の本質に迫る授業を心掛けています。授業は講義形式だけではなく、様々な形態を取り入れており、生徒の高い能力に合わせて高度な内容も扱います。2020 年度から一人一台のタブレット端末を導入し、活用しています。

週あたりの授業時数

	国語	社会	数学	理科	英語	芸術	保健体育	コンピュータ	選択	教養	計
1年	6	5	4	5	5	3	4	1	0	1	**34**
2年	5	5	6	4	6	4	3	0	0	1	**34**
3年	5	5	5	4	6	3	3	0	2	1	**34**

国語科

豊かな言葉の使い手になること、そして適切な方法で表現できるようになることを目指しています。

１年生では、学習の根幹となる力を養います。文章読解のほか、文法学習や漢字学習を行います。書道に加え、読書推進と調べ方学習の「図書室の時間」を設けているのも特色です。

２年生では１年次の基礎を踏まえ、学習を深めていきます。たくさんの文章に触れて読む力をつけながら、書く力も向上させていきます。同時に、口頭による表現力、思考力も磨きます。

３年生ではより高いレベルの教材を通し、発展的な表現や創作につなげていきます。漢字学習は漢検準２級の水準に達します。読む、書く、聞く、話す、それぞれを３年間でバランスよく習得するのが普通部における国語学習の特徴です。

社会科

地理（1・２年計５時間）では、1年生で世界地理、２年生で日本地理を学びます。グローバルな世界の問題から身近な地域の問題まで、広く学習します。講義ばかりでなく、地図でのまとめや発表も行い、生徒の自主性を伸ばすことを心がけています。

歴史（1・２・３年計６時間）では、身の回りの事象との結びつきや土器や石器などの実物を用いての学習から始めて、次第に高度な歴史資料を扱えるようにしています。全体を通じて、実証史学に基づきながらも、知識偏重に陥らない学習に努めています。

公民（2・３年計４時間）では、新聞記事やインターネットからの情報を活用して、社会の仕組みの基礎を理解できるようにしています。時事的な問題にも関心をはらい、それを学術的なことがらと関連させながら理解できるように努めています。

数学科

各学年ともに普通部独自のカリキュラムで授業を行っています。内容によって数学Ⅰ（代数、確率・統計）、数学Ⅱ（幾何）に分け、1年生では 24 人学級での細やかな指導を行っています。

授業では、まず教科書の内容をしっかり学び、基礎力を養成します。その上で発展的内容や応用問題に挑戦して、理解を深めます。ときには教科書を離れて、パズルのような問題で柔軟な思考力を養ったり、実際に立体を作ったりします。

またコンピュータやタブレットを使って、黒板の授業とは一味違った勉強をすることもあります。生徒が自分で問題を作ってそれを互いに解き合ったりすることもあります。こうした一方通行でない授業を通じて、一人一人の数学の世界が広がり、数学の美しさが見えてくることを目指しています。

理科

理科では、実際に自分の目で見て実物に触れるという体験を重視しているため、毎週２時間の連続した実験授業をしています。実験や観察は個人実験を中心に、毎年 20 テーマほど行っています。2時間連続にすることで、通常では扱うことのできないような内容の実験にも取り組んでいます。例えば「カエルの観察」「減数分裂の観察」「構造異性体パズル」「マルチテスターの作成」「火山噴出物と鉱物の観察」「天気図の作成」「電気分解」「帯電列」「水平投射」です。実験を行った後は実験報告書を課しています。実験の結果をまとめ、疑問点を調べて考察することで、自らが行ったことについての理解を深めてもらいます。また日常生活の中で観察する力をつけるためにフィールドノートを各自が持ち、身の回りの自然観察も行っています。

教室では、実験内容にも触れながら、科学的な思考を身につけられるような授業を行っています。

英語科

英語は、1年生は24人学級で、2・3年生は40人学級を2分割して授業を行っています。

英語科では、学習を「知識や技能の習得」にとどまらず、「共同体への参加を通して得られる役割や過程そのもの」ととらえ、多様な学習歴の生徒が共同して学習するクラスコミュニティの構築に努めています。「聞く、話す、読む、書く」の4技能統合型の授業の中で、言語形式と意味、機能の関係に焦点をあて、生徒の気づきを促します。教科書は主に New Crown（三省堂）を使用しています。また、eラーニング教材や学習マネジメントシステムを利用したり、タブレットで授業支援アプリを使ってプレゼンテーションやスピーキングを行ったり、多読、暗唱など多様な言語活動を行います。外国語を学ぶことで、見える世界が広がるということを発見してほしいと思います。

教科教育

美術科

美術という言葉を聞いただけで「どうせ自分には才能がないから…」と決めつけて、興味を持とうとしない人は少なくないでしょう。けれども美術は決して才能ある一部の人だけのものではありません。

絵画、工作など何かを作る時、どうしたら作品が完成するか色々考え計画を立てます。材料をどのように使って、どういう工程を経れば出来上がるか。途中で失敗することもあるかもしれませんが、その時はまた違う手段を考えて、なんとか完成を目指します。これはまさにプログラミング的思考であり、中学生のうちに是非伸ばしてほしい能力です。

与えられた知識をただ覚えるのではなく、自分自身で問題解決していく力をつけることが、美術の大切な目的です。自らの頭で考え、作品を作り上げた時の達成感を多くの生徒に味わってもらいたいと思っています。

技術・家庭科

モノを作るということは一人になりきる無心の行為です。集中。一枚の布に糸を通し、そして縫い上げる行為。刃物を研ぐ。鑿（のみ）を叩く。鉋（かんな）をかける。工作機械を巧みに操る。油をかけた金属の塊を切削する。ヤスリで成形する。ねじ切り加工を施す。そして、材料をただ、ひたすら研磨紙で丁寧に磨き上げる。そんな孤独な行為です。

モノを作ることの対極に破壊があります。それは一瞬で事足ります。しかし、作る行為には時間も労力もかかりますし、なにより汚れます。そんな手間のかかる行為を技術・家庭科では大切にしています。

楽しみながら挫折しながら粘り強くしなやかな対応が出来る。そんな普通部生の育成と重ねて「道具を使って作る」という人間に与えられた基本的特性を大切に伝承していくことを目指しています。

音楽科

「自ら音楽表現すること」を大切にして、音楽の授業を展開しています。授業は実技演奏中心で行われ、その中で音楽理論・音楽鑑賞等も行います。

１年生では篠笛・和太鼓による日本の伝統音楽の体験やハーモニカ等の演奏体験、２年生ではクラッシックギター、３年生では日本語や英語の歌詞によるギター弾き歌いを中心に行っています。またクラス全体で、61個のシューマリック社製ハンドベルの演奏をしたり、合唱したりする大掛かりなアンサンブルも体験します。その楽器演奏を何度も繰り返し練習する過程で、想像力の広がりや効率的練習方法の工夫、何より演奏表現することによって音楽をより身近に感じ取られることを願って授業を展開しています。３月には音楽会があり、有志演奏や３年生のクラス演奏が繰り広げられます。

2020年度よりいろいろな制約が生じ、歌唱、篠笛、ハーモニカができない状況でしたが、いろいろ工夫を施して授業を進めています。

書道科

「書とは文字を素材とした造形芸術」です。普通部では、書道の幅広い活動を通して、文字のもつ「美しさ」を自分らしく表現することを大切に授業を展開しています。

１年生では楷書の基礎と行書の基礎を中心に字画構成、筆の使い方、筆圧の変化、余白の活かし方などを学習していきます。１月には書初め大会が行われ、静寂の中、揮毫を行います。

２年生では主に書の古典の臨書・鑑賞に取り組みます。古典学習では用筆法のみではなく作品の歴史的背景、作者の生き方にも迫り、作品との関連を分析していく学習も展開しています。最終的には楷書、行書それぞれ半切の作品に仕上げていきます。

３年生では「１文字アート」をテーマとして、現代空間にふさわしい作品のあり方を模索・検討しながら刻字・篆刻（てんこく）・少字数作品等に取り組み、卒業制作としています。

保健体育科

保健体育では、丈夫で逞（たくま）しい身体づくりを念頭に心身ともに健全な男子中学生の育成を目指しています。成長期にある男子生徒の特徴を考えながら、様々な授業を展開しています。

実技は、球技（ゴール型・ネット型・ベースボール型）、器械体操、陸上競技、水泳、武道、ダンスなど、3年間のバランスを考えながら実施しています。多くの種目に触れながら持久力、瞬発力、巧緻性、チームワークなどを養ってもらいたいと考えています。

保健では、暮らしに関わるテーマ、身体に関する疑問、動きの仕組み等、実技とは異なる視点から学習をしています。自分の生活、身体に興味を持つことは大切なことだと捉えています。

この授業を通して、様々な対応力を養い、生涯にわたり、スポーツ活動に親しめる心と体の育成を心掛けています。

コンピュータ科

1年生は週に1時間必修の授業があり、コンピュータ教室でパソコンを1人1台使って授業を行います。インターネット接続は専用線で校内LANを利用して、サーバーに作品を保存しています。

授業はコンピュータ教室やタブレットの使い方、タイピングから始めます。ロボット制御の授業では、ロボットを組み立て、プログラムを転送して、 自分の考えている通りに動かします。そして、センサーを利用して、ロボットが自分で障害物を避けて動くプログラムを作ります。

ホームページビルダーを利用した教材作成の授業では、Web形式での教材作成について学びます。Visual Basicを利用したプログラミングでは乱数を利用して、自分のアイディアを取り入れたゲームを作成するなど、コンピュータを積極的に使いこなすことを学んでいきます。

選択授業

視野を広げ、理解を深める

土に親しむ

弦楽器

木管楽器

書-SHO-

コンピュータを使った動画制作

美術研究

Beyond “数学”

選択授業は、土曜日の３・４時間目に３年生が受講します。教科の枠にとらわれない多彩な講座が提供されています。それぞれの興味や関心に基づき、学びを深め、視野を広げる時間です。2022年度は15 講座が開講されました。

2022年度に開講された授業

	講座名		講座名
1	複言語	9	土に親しむ
2	木管楽器 ・フルート・クラリネット ・サクソフォン	10	普通部の森造りと自然観察
3	金管楽器	11	コミュニケーション
4	弦楽器	12	琉球研究
5	書 -SHO-	13	Beyond “数学”
6	美術研究	14	中国文化
7	選択技術	15	コンピュータを使った動画制作
8	コンピュータ		

※ 授業内容や講座数は年度によって異なります。希望者が多い場合には、面接や選考を行い受講者数を調整することもあります。
※楽器演奏は、お互いに距離をとり、換気状況の良い教室で行っています。

専門性　広がる視野　多彩な選択肢

選択授業は実に多様なかたちで展開されます。各分野の最前線で研究をしている方を招いての聴講、美術館や大学研究室への訪問等、その分野の神髄に触れることも大切にしています。

また、自分で調べてまとめたものを発表したり、討論を行ったりという授業もあり、自分の考えをまとめて、発信する力を伸ばしています。

コミュニケーション

演劇の手法を用いて、日常生活のあらゆる場面で必要とされるコミュニケーションについて考察します。与えられた環境で自らを活かす術や、他者との関わり方について、気づきを得る時間です。

中国文化

基礎の中国語や、絵本の翻訳、民族構成など、地理的な特徴を学習します。さらに文化面として、中国茶を自分たちで淹れたり、中華街で肉まん包み体験をしたりと、変化に富んだ活動を行います。

宿泊行事・国際交流

全員参加

７月に学年全員で行く宿泊行事です。１年生は奥日光、２年生は志賀高原、３年生は富士へ、学校を離れて自然の中で友達と過ごす数日間。普段とは異なる体験はそれだけで貴重な学びです。

1 年生・奥日光林間学校

2 年生・志賀高原林間学校

3 年生・富士自然学校

希望参加

希望参加の宿泊行事も数多くあります。海浜学校、キャンプ教室、スキー学校、その他に各部会が行う合宿があります。生徒の興味・関心にこたえる機会であるとともに、友達や先輩後輩との絆を強める大切な時間です。

海浜学校

キャンプ教室

スキー学校

国際交流

2012 年にフィンランド・トゥルク市の中学校と、2015 年にオーストラリアのパース近郊の中高一貫校と、それぞれ国際交流を開始しました。現地訪問と受け入れの相互交流を行っています。国際語である英語を用いて様々な背景を持つ同年代の人たちと意思疎通を図り、友だち同士になる経験は、広い視野で物事を判断することの大切さや、日本や日本人、自分について改めて考える良い機会になっています。
ここ数年、訪問、受け入れともに中止していましたが、2023年からいよいよ再開できることになりました。

普通部生の1日と1年

1日の学校生活

普通部は週６日制です。月～金曜日は６時限授業、土曜日は４時限授業です。授業は9:00 開始で、朝礼や朝のホームルームはありません。下校時刻は、部会活動参加かどうか、また季節や学年によって変わりますが、最も遅い場合でも18:00です。

8:00～8:55 登校

8:55までに登校します。登下校の制服は黒の詰襟、靴は黒の短靴、かばんは学校指定のものを使用します。制帽の着用は自由です。

9:00~12:35 1～４時限授業

授業は、教科の特性や内容に応じて、ホームルームだけではなく様々な施設、教室を使います。クラスを分割して少人数で行う授業もあります。

12:35～13：15 昼休み

家から持参したお弁当、自販機で購入したパンや飲み物は、ホームルームで食べます。それとは別に、定食、カレー、麺類が揃う食堂も利用できます。

13:20~15:05 5～6時限授業

すべての教室に電子黒板をはじめとするICTの環境が整っています。黒板とチョークによる講義形式の授業、タブレットやPCを用いた授業、グループワーク中心の授業など、多様な学びを目指しています。

15:05～ 放課後・部会活動

教室の清掃後は自由に下校できます。部会活動への参加、教員への質問や相談、メディア・ライブラリーでの調べものなど、下校時刻まで各自が有意義に使います。

普通部の1年

普通部は 3 学期制です。1年間を通じて様々な行事があり、普段の学校生活とは異なる経験を積むことで、広い視野、豊かな心、強い身体を育てていきます。

＊印は希望参加の行事です。行事は変更になる可能性があります。

4月
- 入学式
- 定期健康診断

5月
- 遠足
- 校内大会
- 野球早慶戦応援（１年生は全員参加）

6月
- １年生部会入部受付開始

7月
- 林間学校（１・２年生）
- 自然学校（３年生）
- オーストラリア（パース）国際交流（毎年相互訪問）＊

8月
- 海浜学校＊
- フィンランド（トゥルク）国際交流（隔年で相互訪問）＊

9月
- キャンプ教室＊
- 労作展

10月
- 運動会

11月
- 目路はるか教室
- 多摩川 40km ハイキング＊

12月
- 芸術鑑賞会
- スキー学校（３年生）＊

1月
- 書初め大会（１年生）

2月
- 入学試験
- 合格発表

3月
- 音楽会
- 卒業式
- スキー学校（１年生）＊

―― 下線は 2022 年度に中止となった行事です。

労作展

普通部教育の神髄に触れる

労作展覧会（労作展）は、1927年に始まり、2023年度で95回を迎えます。自分の力でテーマを見出し、考え、感じ、汗をかき、工夫を重ね、長い時間没頭しながら、一つの作品を仕上げ完成までこぎつける。そういう体験を積ませたいとの願いは昔も今も変わっていません。レポート用紙100枚にもおよぶ理科や社会の研究、あるいは国語科で長編小説や詩に挑戦する人もいます。英語の本を日本語に翻訳しようとひと夏を費やす人もいます。毎年テーマを変える人もいれば、同じテーマを3年間丹念に深く掘り下げていく人もいます。

生徒の振り返りから

労作展とは、普通部そのものだと言えるかもしれない。5年生のときに初めて労作展を観た衝撃は今でも忘れられない。そのときに感じた先輩たちへの尊敬の念と、自分もいつかこのような素晴らしいものを作りたいという強い思いから、普通部を受験することをはっきりと心に決めたのだ。いっぱい苦しんだが、最後に納得がいくものを作ったことで、先輩たちに少し近づけたのでは、と嬉しく思った。

3年生 数学

「夏休みの全てをこれにかけても悔いが残らないもの」そう言い聞かせながら最後まで頑張りました。とても苦しい労作展でしたが、自分で追い込んだことで、ある確信めいたものが芽生えました。僕は人付き合いが不得手で、自分の考えをうまく伝えられない不安があります。しかし人が苦手でも、自然や自然現象・法則に対してなら、のめり込むことができる。またそこでの発見を人に伝えたいという思いもある。そういう自分を確認できたことが、今回の労作展での最大の収穫です。

2年生 理科

僕にとって労作展は、学びの始まりです。目路はるか教室と同じように、授業ではやらない内容を自分自身の作業によって学ぶことができます。中学校において、「与えられる」学習が多い中、「自分から知る」学習であるこの労作展というのはとても有意義なものだと思います。自分のやりたいことというテーマは、主体性を持って取り組める要素であり、とてもいい経験になりました。

3年生 国語

自分の好きなことや興味のあることについてとことん調べ尽くす、そして、それを表現するという勉強の根幹とも言えることができる行事だと思います。また、いろんな方向から物事を捉えて調べたり、考えたりすることは、これから生きていく中でも大切になっていくことです。まさに、労作展はこれからの人生で本当に役に立つ「本当の勉強」というものが学べる場だと思います。

1年生 社会

第94回（2022年度）労作展作品

※ 普通部ホームページに昨年度ヴァーチャル労作展、受賞作品と振り返りが掲載されています。

国語 「私製新聞『塵積』」

美術 「木象嵌『ライオン』」

技術家庭 「ペンは剣よりも強し」

美術 「福沢先生と僕」

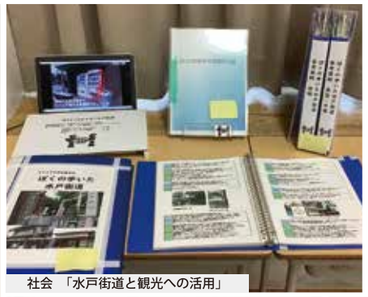
保健体育 「日本プロ野球で完投が減少したのはなぜか」

理科 「慶應義塾普通部の植物相調査と植生調査」

書道 「『乙瑛碑』臨書」

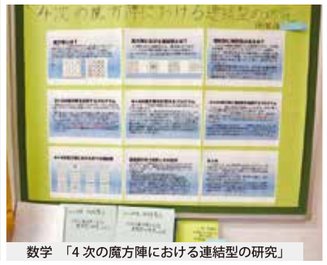
技術家庭 「自作エンジン付キックボードでナンバー取得を目指す」

美術 「僕はどこ　～ハリネズミ、うさぎ、ラクダを探せ～」



社会 「水戸街道と観光への活用」

美術 「再会の場所へ」



数学 「4次の魔方陣における連結型の研究」

音楽 「J.S. バッハ『シンフォニア』の考究」

目路はるか教室

五感で感じる先輩の生き方

目路（めじ）はるか教室は卒業生を講師に招いて行う特別授業です。先輩の表情、話し方、振る舞い、情熱、職場の雰囲気、時には先輩の同僚やスタッフの方、直接に触れることで得られる学びがあります。自分の将来や方向性を考え始める大きな刺激になっています。

３年間で６人の先輩と出会う

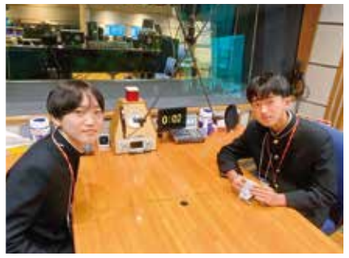
学年全員で参加する「全体講話」と、10コースから希望の授業に参加する「コース別授業」と、毎年２人の先輩の授業を受けます。経済、法曹、医療、芸能、マスコミ、スポーツなど多様な分野で活躍する卒業生を講師に招いています。

毎年33人の講師

全体講話の講師が３人、コース別授業の講師が３０人、講師の決定と依頼は、毎年、普通部の教員と卒業生６名とで構成された委員会にて、時間をかけて行っています。

普通部の外へ連れ出してもらう

職業を学ぶことよりも、どうやって仕事や人生を選択してきたか、どんな努力や失敗をしたのか、先輩の人生に触れることを大事にしています。そのためできる限り、先輩の職場やフィールドへ足を運び、授業を受けます。



生徒の振り返りから

「働く」とは人の役に立つこと

最初、「働く」のイメージは生活費を稼ぐだった。先輩の話を聞いて、働くことは人の役に立つことであり、それによって充実感や満足感を得られることなのだと分かった。自分の能力を生かし、社会に役立つような働きをすることが自分らしい生き方であり、心豊かな生活を送ることにつながる。富や名声よりも自分以外の人の幸せに貢献できる方が充足感は高いのだと知った。

１年生

自分にしかできないことを仕事にする

先輩にとっての仕事とは「その仕事は、あなたでなければならないのですか？」と聞かれた時に「はい」とはっきり答えられるものだと言っていました。仕事に対して自分にしかできず、自分でやることに意味があると思っているのだと思います。その理由は、先輩の今までの人生から感じ取れました。例えば、高校生で起業したことからは飲食店コンサルタントに対する熱意が強く感じられますし、他にも様々なことにチャレンジした挙句、飲食に関する仕事に戻ってきたのも「自分にしかできない」ということを自覚するきっかけになっていると感じました。

１年生

新しい環境を求めること

同じ環境に居続けることを避け、新しい環境を求めることは勇気のいることだと思った。先輩は仕事を大切にしながらも回り道することを良く思っていた。これは回り道が仕事に役立つことがあったからだと語っていた。一見無駄に思えることでもあとで役に立つことがあるということを頭に置いて僕も色々無駄なことをしておきたいなと思う。

１年生

部会活動

正課を補う充実した時間

普通部生活を学業とともに豊かなものにしているのが部会活動です。自分の興味のあることがらや趣味に応じて各部会に入部し、活動に励みます。他クラスや他学年の普通部生、教員と交流する貴重な場となっています。同じ興味を持つ者が集い、目標に向けて協力する。そうした活動を通じて、生涯の友人を持つ。これが部会活動の醍醐味のひとつです。

部会一覧表 2023 年度
運動部会（21 部会）
合気道部
アーチェリー部
オールスポーツ・アウトドア部
空手部
弓術部
剣道部
ゴルフ部
サッカー部
山岳部
柔道部
水泳部
卓球部
テニス部
バスケットボール部
バドミントン部
バレーボール部
保健体育研究会
野球部
ラグビー部
ラクロス部
陸上競技部
文化部会（14 部会）
英語研究会
演劇・映画の会
音楽部
物理と化学の会
棋道研究会
コンピュータ部
書道部
数学研究会
生物の会
地理・GIS 研究会
農の会
美術部
星と石の会
歴史研究会

多種多彩な部会活動

普通部には運動部会が21部会、文化部会が14部会あります。いずれかへの入部が原則です。１年生では９割が運動部会、４割が文化部会に所属しています。複数部会に所属している普通部生も少なからずいます。

入部制限

入部希望者多数の場合、施設、安全面などの理由から人数制限を設ける部会もあります。このため希望した部会に必ず入れるとは限りません。入部制限を設ける部会は、年度により変わります。

部会活動の位置づけ・日数

部会活動は正課（授業、学級活動）、課外活動（式典、行事等）に次ぐ位置づけであり、あくまで教育活動の一環であると考えています。試合や大会に参加する等の理由で、授業および学校行事を欠席する場合、公欠制度はありません。特別な補講も行いません。また、部会の活動日数には上限があり、どの部会も平日（月～土）は３日まで、長期休業中は休業日数の２分の１までです。

1年生向け説明会

ラクロス部

演劇・映画の会

山岳部

農の会

バレーボール部

合気道部

アーチェリー部

星と石の会

ラグビー部

一貫教育の 縦のつながり

慶應義塾大学の学生や社会人のOBがコーチとして指導にあたる部会が多いのも、一貫教育校ならではの普通部の特色です。「コーチは熱心に指導してくれるだけでなく、いろいろ相談できる」「慶應義塾の縦のつながりを意識し、自分もその伝統に参加できる喜びを感じる」という声を耳にします。小学生から大学生、さらに社会人まで集って活動する全塾合同の練習会やイベントも行われています。また、中等部や湘南藤沢中等部との対抗戦を定期的に行っている部会もあります。

空手部

音楽部

バスケットボール部

物理と化学の会

棋道研究会

サッカー部

施設

本館　1年生教室、目路はるかホール、メディア・ライブラリー（図書室）、ギャラリー、教員室、事務室、保健室、談話室、用務員室、応接室、部長室
本校舎　2・3年生教室、普通教室、コンピュータ教室、AV教室、第3・第4理科室、調理室、北食堂、購買、警備室、屋上
特別教室棟　美術教室、技術教室、書道教室、音楽教室、第1・第2理科室、多目的教室、合併教室
体育館・小体育館　柔道場、剣道場
南食堂、部室棟、校庭、弓道場、
その他に
第2グラウンド、テニスコート、農園

目路はるかホール
可動式客席（250席）をもつ多目的ホールです。講演会やコンサート、生徒の演劇公演、保護者会など、さまざまな場面で使用されています。また、和太鼓を使う音楽の授業に使われることもあります。

メディア・ライブラリー（図書室）
開架式で蔵書3万9千冊と各種データベースを備えた図書室です。6人用机と自習机があり、休み時間、放課後を使って、調べ物等によく利用されています。また、DVDや音楽を視聴できるAVブースも設置されており、ゆったりとした読書、学習環境が整えられています。

本 館

本校舎

ギャラリー

1年生教室

2・3年生教室

コンピュータ教室

第3理科室

音楽教室

購 買

南食堂

昼食は家庭より持参したお弁当を食べるのが原則ですが、食堂も利用できます。北食堂はパンや飲み物の販売を行い、南食堂は日替わりランチやカレーなどを提供しています。放課後には軽食の販売も行っています。

体育館

柔道場（小体育館1階）

剣道場（小体育館2階）

校 庭

第2グラウンド

テニスコート

ウェブサイト・出願・入学

ウェブサイト（普通部ホームページ）

ウェブサイト（https://www.kf.keio.ac.jp/）にて、普通部の歩みや学校生活、過去の労作展、目路はるか教室の様子などを、写真とともに発信しています。

過去の学校説明会で用いた動画（部長の話、主事の話、各教科担当者の話）を視聴することもできます。ぜひご覧ください。

募集要項・出願

2024 年度入学試験（2024 年 2 月実施）の募集要項は、2023 年 10 月頃に普通部ウェブサイトに掲載します。

出願には次の ①、②の手続きが必要です。

① 出願情報入力および入学検定料支払（インターネット・2023 年 12 月～ 1 月）

② 出願書類郵送（2024 年 1 月）

一方のみでは出願は完了しませんのでご注意ください。

その他、受験生の方への最新情報は、随時普通部ウェブサイトにて発信します。

募集人員

男子約 180 名（内部進学者数により変動）

入学試験

●期日　試験　2024 年 2 月 1 日（木）

●内容　筆記（国語、算数、社会、理科）、面接試問（本人のみ）、体育実技

●筆記試験の配点と時間

	国語	算数	社会	理科
配点（点）	100	100	100	100
時間（分）	40	40	30	30

●面接試問　複数の面接官が面接を行います。質問内容は年により、面接官により異なります。

●体育実技　年によって内容は変わりますが、柔軟体操のあと簡単な運動を行ってもらいます。

●入学試験結果

入学年度	2019	2020	2021	2022	2023
応募者数	614	634	603	605	587
受験者数	594	589	563	575	557
合格者数	180	180	195	205	195
繰上候補者数	70	70	70	70	68

※平均点、合格最低点、面接の方法・内容等については公表していません。
※試験当日は、会場に携帯電話やその他の通信機器を持ち込むことはできません。

学費・費用

普通部に在学中、必要な学費等はおおよそ以下の通りです。これ以外にかかる費用としては、部会活動の費用などがあります。
以下の費用は 2023 年度のもので、年度によって変動する可能性があります。

納付金

	1 年	2 年	3 年
入学金	340,000 円		
授業料 *1	880,000 円	880,000 円	880,000 円
教育充実費	200,000 円	200,000 円	200,000 円
普通部会費 *2	15,000 円	15,000 円	15,000 円
保有金 *3	約 90,000 円	約 55,000 円	約 85,000 円
林間・自然学校費用	約 45,000 円	約 45,000 円	約 45,000 円
普通部独自の物品 *4	約 100,000 円		
	合計　約 1,670,000 円	**約 1,195,000 円**	**約 1,225,000 円**

*1：前・後期に分けて分納できます。
*2：図書資料整備費、行事運営費用、部会活動等に使用します。
*3：副教材、芸術鑑賞会・遠足費用、傷害・賠償保険料、南食堂光熱水費等に使用します。
*4：iPad、通学鞄、スモック、体操服（ウォームアップジャケット、ストレートパンツ、半袖シャツ、ハーフパンツ）、運動靴 2種の合計額です。
制服は、指定された型の詰め襟であればボタン以外の指定はありませんが、普通部でお求めの場合 42,800 円となります。

希望参加の行事費用

名称	費用（概算）	対象学年
海浜学校	25,000 円	1 ～ 3 年生
冬スキー学校	88,000 円	3 年生
春スキー学校	76,000 円	2 年生
キャンプ教室	7,000 円	1 ～ 3 年生
フィンランド 国際交流プログラム	300,000 円（訪問時）	2 ・ 3 年生
オーストラリア 国際交流プログラム	250,000 円	2 ・ 3 年生

奨学金 *

名称	条件	支給額	給付／貸与
小泉信三記念奨学金	成績・品行優秀であり、かつ経済的事情で学業の継続が困難な者（第 2 学年以上）	授業料の全額または半額	給付
2000年記念教育基金奨学金	A. 教育援助型 経済的事情により学業の継続が困難となった者	授業料半期分の範囲内	給付
	B. 国際交流援助型 経済的事情を抱えながら、各一貫校が主催する短期留学・国際交流プログラムに参加する者	国際プログラム参加費の実費の範囲内（50 万円を限度）	給付

* その他各種補助金等もあります。くわしくは事務室までお問い合わせください。

寄付金、学校債 *

名称	金額	備考
普通部教育充実資金	任意の金額	
慶應義塾教育振興資金	一口 3 万円、　できましたら二口以上	
慶應義塾債	一口 10 万円、できましたら三口以上	大学卒業時、大学院修了時または慶應義塾離籍時に償還

* 寄付金、学校債ともに任意です。いずれも入学手続き後に募集いたします。

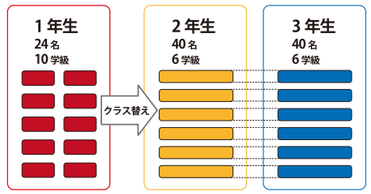
普通部の特色

少人数学級

普通部は、1年生24名10学級、2・3年生40名6学級、全校生徒数720名規模の学校です。授業は、ホームルーム単位で、1年生は24名を基本に行います（2クラス合併の授業もあります）。2・3年生は40名を基本に、教科によってはクラスを分割し少人数教育を実施しています。下位クラスの生徒の動機づけ向上が難しいこともあり、習熟度別授業は実施していません。共同学習や学習コミュニティーの形成に注力し、「学び合い、教え合い」のできる学習環境の構築に努めています。

クラス替え

1年生から2年生へ進級する際、クラス替えが行われます。2年生から3年生へはクラス替えはありません。



教養の時間

毎週水曜日の6時限目に「教養」という授業があり、学級担任が担当します。自分自身に関すること、人とのかかわり、集団・社会あるいは生命や自然とのかかわりに関することについて、クラスで話し合いなどを行い、それらを通じて普通部生としてのあり方について考えていきます。

補習

補習授業の制度はありませんが、授業担当者やクラス担任が個別の学習相談、質問に随時対応しています。
わからないことがあるときは友人や先生に質問ができる、困ったときは先生に気軽に話ができる、そうした環境を通して自分なりの学習のやり方を身に付けてほしいと考えています。

進級・再修

成績は、各科目5段階評価で、年3回、学期末に通知されます。期末試験を中心に、小テスト、レポート、提出物、平常点などが評価の対象となります（保健体育、芸術科目は通例、期末試験を行いません）。
入学してしまえば、何もしなくても自動的に進級できると誤解する人がいますが、学年ごとに「再修」の制度があり、進級基準に満たない場合は進級できません。なお、再修できるのは1回のみとなっています。

保護者会・授業参観

普通部にはPTA組織がありませんが、保護者会が年間5回（1年生は6回）あります。保護者会では、普通部長の話、校医の話などがあり、クラス担任との懇談や保護者面談が行われます。日頃の学習状況や学校生活について、ご家庭との連絡を密にとり、教育効果を高めています。授業参観は1年生の1学期に行われ、授業の様子を知る機会となっています。

健康管理

保健室は、大学保健管理センターと連携しており、保健師、校医（小児科医）が在室しています。また、林間・自然学校には医師と看護師が同行するなど、生徒の健康には万全の注意を払っています。心理面については、スクールカウンセラーがカウンセリングを行います。そのほか、スポーツ専門医によるスポーツ医学相談（年3回）、保健体育の授業で救急救命の基礎を学ぶ BLS(Basic Life Support) 講習があります。
食物アレルギーについて、学校として特別な対応はしていませんが、校医の助言を受けることができます。

名簿

普通部生全員の氏名、住所、電話番号を記載した名簿を作成配布しています。

通信手段、携帯電話

ご家庭と学校とのやり取りは、対面と電話を基本にし、電子メールやSNSは利用しませんが、連絡には一斉送信メール等を利用しています。携帯電話は学習への集中をそぎ、トラブルも少なくないため、理由のいかんを問わず学校への持ち込みは認めていません。

通学圏

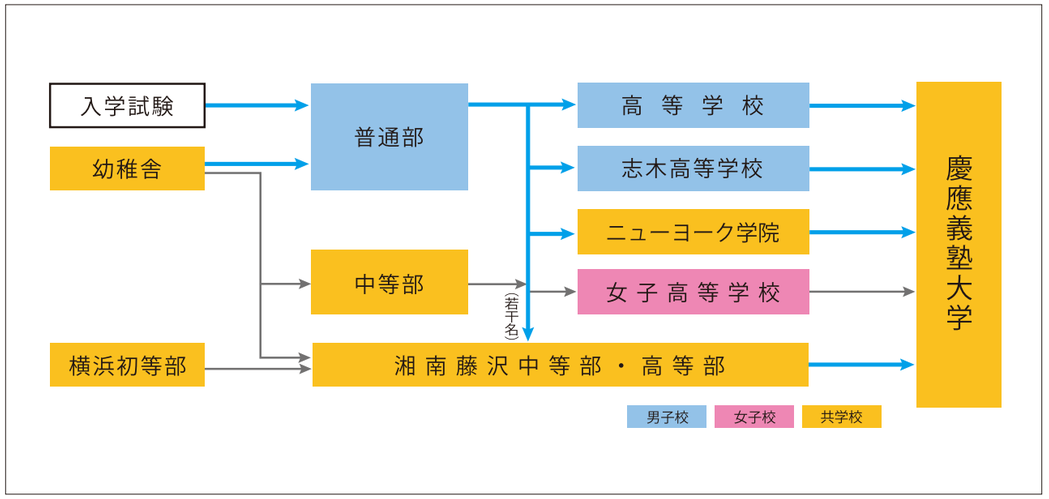
東京都	61%
神奈川県	35%
その他 埼玉県、千葉県、静岡県	4%

2023年1月現在

進学

普通部の卒業生は、慶應義塾高等学校、慶應義塾志木高等学校、慶應義塾湘南藤沢高等部、慶應義塾ニューヨーク学院（高等部）の中から希望する高校を選ぶことができ、普通部長の推薦により進学します。なお、湘南藤沢高等部への進学者数については制限があります。
高校卒業後は、各高等学校長の推薦により慶應義塾大学へ進学します。学部ごとに人数の上限が設けられているため、第一希望の学部に推薦されないこともあります。学部推薦の詳細については、各高等学校へお問い合わせください。

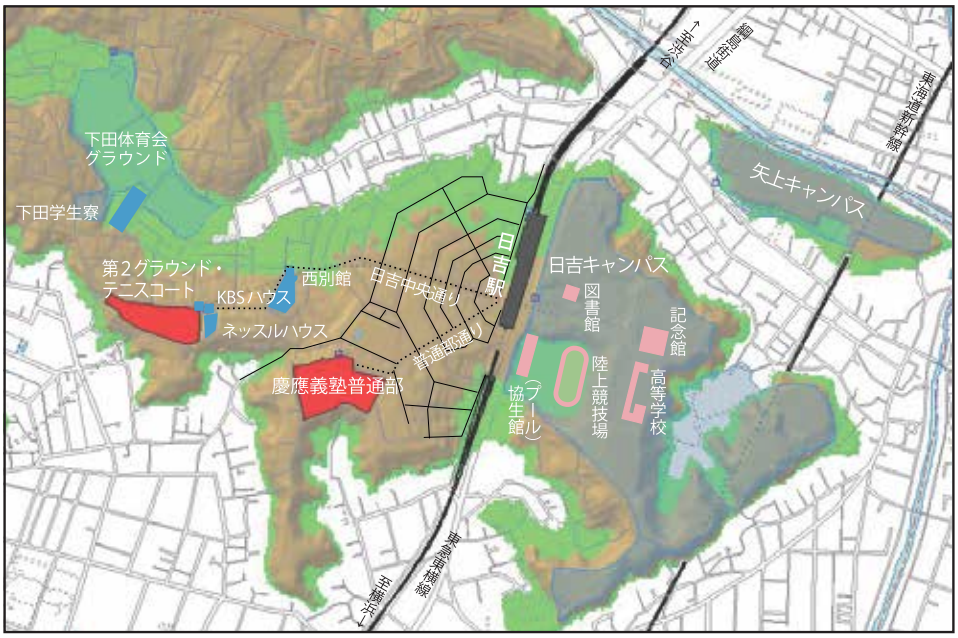
進学



卒業生の進路

卒業年度	2018	2019	2020	2021	2022
慶應義塾高等学校	221	227	225	228	234
慶應義塾志木高等学校	1	1	2	2	0
慶應義塾湘南藤沢高等部	6	3	6	0	3
慶應義塾ニューヨーク学院	0	1	0	0	0
その他	4	0	0	2	0

日吉周辺図



東急東横線・東急目黒線・東急新横浜線・横浜市営地下鉄グリーンライン 日吉駅下車 徒歩５分

日吉駅へは、渋谷から 22 分（急行 18 分）、目黒から 22 分（急行 17 分）
横浜から 16 分（急行 11 分）、あざみ野から 16 分
※東急東横線の特急は日吉駅に停車しません。

慶應義塾普通部
Keio Futsubu School

〒223-0062 神奈川県横浜市港北区日吉本町 1-45-1
1-45-1 Hiyoshi-honcho, Kohoku-ku, Yokohama 223-0062
https : //www.kf.keio.ac.jp/

TEL 045-562-1181（代表）
+81-45-562-1181
FAX 045-562-8279
+81-45-562-8279